

HopStepJump 10

<https://toyono-jinjikyoo.com/>

授業づくり⑥

～ 言語活動の充実と学習評価について～

初任者研修第10回は、兵庫教育大学大学院教授 吉川芳則先生に、「言語活動の充実と学習評価について」をテーマにご講義いただきました。授業づくりを柱に、教員としていつも意識しておかなければならないことを、厳しくも温かさをもって話してくださいました。学ぶ場として、教室の言語環境を整えることはとても重要です。「先生の話は、長くてくどくてつまらない」「子どもにとって話すモデルになっていますか」「もう5分子どもたちに時間を返そう」など、先生がお話される内容は、自らを客観的に捉え、この時期に心新たにできる機会となりました。

研修の最後に取り組んだ授業づくり自己成長・確認シートでは、5月の時の自身と比較し、成長を感じた受講生や、吉川先生の講義を踏まえた上で、次へのステップにつながる実践課題を明確にもつことができた受講生も多くいました。

～振り返りシートより～

吉川先生の講義を通して、毎日の自分を振り返ることができました。今、何ができているのか。何ができていないのか。何を改善していくのか。とても明確になり、明日からの授業が変わっていきそうです。

お話の中にもあった好ましくない話し方に当てはまっていたり、目的が明確でないまま活動させていたり改善点が多くありました。明日のことだけでなく、一呼吸おいて振り返ることの大切さを感じました。明日からは短く、わかりやすく話すことを実践課題にして取り組んで行こうと思います。

今回の研修で特に印象に残ったことは「受けて聴く、問うて出る」という言葉です。授業改善のヒントとして「受けて聴く」というワードは特に大切だと思いました。授業で内容を伝えた後に質問が出ます。それを受けて、こちらから「問うて出る」ことができれば授業の幅が広がります。しかし、それは「受けて聴く」ということができているのが前提だと思います。まず、一つだけ頑張るためにも「受けて聴く」ができるように努力していきたいと思います。

子どもに〇〇な力(聴く力や話す力等)を育てたいと思っているのなら、まずは教師が子どものモデルになることが大切だということを改めて実感しました。「しっかり聴きましょう」「その言葉はやめよう」と口癖のように毎日言っていますが、実際、教師である自分は子どもたちのことを「しっかり、じっくり受け止めて聴けているのだろうか」「やばい、めっちゃなどの曖昧な表現をしていないだろうか」ということを考えると、できていない部分が多いことに気づきました。吉川先生が研修中、何度も「まずは一つ決めて頑張ってみよう」「一つ頑張ったらそれがすべてにつながる時が来るから」ということをおっしゃっていたので、余裕がなくいっぱいいっぱいになってしまっている私にとって、とても勇気づけられました。ゆっくり焦らず一つ一つ頑張っていきたいと思います。

ほめ方について自分はこれまでほめてあげたいという意識は持っているものの「すごいね」などの言葉ばかりかけていました。しかし、今回、良い変容を見つけることを意識するというのを教えていただいたおかげで明日から子どもたちを見る視点を変えることができると思います。

本日の研修を受けて特に印象に残ったことは板書の工夫についてです。日々の授業でも「どうしたらいいのだろうか」「子どもたちにとって見やすく、わかりやすいものになっているのだろうか」と悩むことがあるのですが、今日、吉川先生に見せていただいた写真を見てとても参考になりました。写真や掲示にとらわれず、文字で、記号で、色でシンプルかつ大胆な板書をこれからもっと工夫してできるようになりたいと思いました。最後に何が言いたかったのか、何を学んだのかがパッと見てわかりやすいというレベルをめざしていきたいです。

本日の研修では日々の自身の授業を振り返ることができました。吉川先生が何度も「がんばるのは一つ」と言っておられ、4月から「あれもこれもがんばらなければ!」と思い、結局、自分自身の成長が感じられず、気持ちだけがどんどん落ち込んでいた状況に気づくことができました。まずは一つ!自分の課題解決に向けて目標を設定し、頑張っていこうと思いました。

講義の中で「実践課題は何ですか」というお話がありました。あれもこれもと気になることはたくさんあるかもしれませんが、一度にたくさんすることはできません。焦らずに、一つの課題にしっかりと向き合って、着実にステップアップしてください。